

学校や保護者、地域の人々の支援を受けながら
伝統文化こども教室で児童がいけばなを学ぶ

さんや 杉並区立三谷 小学校

東京都



学校行事での作品発表のほか、東京花展など池坊の行事にも積極的に参加。中・高学年以上は花選びからいけ込みまで児童自身で行っている。

東京都内にあつて緑豊かな環境の中で、地域の人々に支えられながら多様な教育活動に取り組む三谷小学校。校庭の大イチョウのギンナンを全校で集めて販売し、その売り上げで東日本大震災の被災者を支援する「ぎんなん募金」は新聞にも取り上げられたそうです。

同校では、このような児童の豊かな心を育む活動の一つとして、2003年より伝統文化こども教室がスタートしました。月に1回、高谷浩子さん（東京松桜会支部）が指導を務め、今年度は1年生～6年生の児童45人と保護者3人が受講しています。

アットホームな雰囲気の中、児童たちは自由花を中心に取り組み、高学年になると生花にも挑戦するなど、段階的に学んでいきます。その一層の励みになっているのが免状で、3年間で入門、初伝の取得を目指しているといえます。

いつも楽しく、時に厳しく指導するという高谷さん。「切った花は死んでいるの？」という児童の問いには「切っても美しく咲いているでしょう？ 命はあるのよ」と答え、生き物へのいたわりや生命の大切さを特に強く伝えているそうです。

「一瓶の中に花が共存するいけばなは、人が助け合って生きる社会の在り方に通じています。お互いを尊重し、生かし合う姿勢をいけばなで学んでほしい」と高谷さんは語ります。